西洋道中膝栗毛

八編 下

へ14
1260
16

門へ 134
帙 1260
巻 16

西洋道中膝栗毛八編下

東京　假名垣魯文　戯著

弥次郎ハの物ゝ汐干狩の大名所ゝ運上所まで繁じゝる始末いちゝ大原屋の耳へ入るより廣義いあまりのことゝ後二人りの帰者を待きんぐゝ油をとり以後いかゝの地ゝも弟れ勝手ゆゝき歩りいゆるほどと殺く禁め通ゝ郎も俗ゝ冷た き汗を絞らせやうゝくゝ変悔ゝり初てゝ地の

紅海陽り日のくまで南港を出帆してそれより紅
海ふかいり右のすみアラビヤの地まあり左まは
まで亞非利加海をそる那ち亜細亜とあるうと
の界あり孫氏ハ九くくるる旅案内の書中を
儀こと通況部ふ改合こく地ふを知り地理を
聊爲こく紅中の云捨ふ形はどさあり
あくびやい馬のくよもるとれくる
をまゞ牧なるそ孫ごされ

あふりかとのじゃを海のり戸上ゝ戸
たくも右もやくらきてくくち
孫ライ通さん一緯この海いまゝ陽ふんぞら田ふと
ふふあるくくあるといくこだくらちったア冷シイたゞ
だゞだんゞ暑サゞ婚スゆくるぜ通ゝるくいそくぐ
ゞしゆくくんのんありサゆゝくんのんとらふのい觀者
と一仏一緯くハアあるわどこくらも天竺のうちくゞ
仏法ふ凝ゝてゐるゝ通ゝヤッかほいまくまぜるヨうん

のんとらあるア沢のあることをしらのごゃ「うんのん
の沢ぐあくやアあるゆる宮戸川ゑら細ふかくッた
一寸八分のうんのんゑ子「わやるゆよヨくぐらねく
ことをおやべるのダ時候の論ぐまもむまで黙止く
ねろゆゑほしいッコデ通さうそのうんのんハ三通「そうサ
ゆあふりゑ物とアラビヤの地ゆふ幾百里とるく
廣イ砂原ぐゆりやもぐ賢天ゆたらさまくそのの
焼砂ゑら熱イ風をふきをるゑら蚤疫とも

暑サいおンぼじサよゑうろッぷへ行くゆやア一裏の
雑場だとらあとッた「だゑうとそだんく暑く
ゑるとゆッたそをおやアあふねくも日ふゆけて
色ぐ暑くゑるだらう「シャッポ」でもかぶらうゑ暑く
ん「コウ」沢沢さんあへくそのとをぐ暑くゑりやア
獲ア擺の不動明王ゑろあそぐろぐぶへ花とんぐ
残湯ぐろぐゑうゑら弱をとるぜ天空やあふり
ゑのさんゆやアこ星ぐめりゑぐあゑらア「なんの

てめんの知ったこと志やァねんよくはを出す戈義ダ
通ヲットまるらさろひをたんでめるのうまぐ戦幸い
志ぐらく和儀をとろのくくビイルでも呑べらく
トとれより三人うちまとひてきたれふとのくをるわ（トキニ樓濱
牛肉をさろるのホ洋酒をのむとことありと志ろぐ）
を出帆くくらモウ戦日だろうふるだらう和
ホ居ちやァ月日のきろのぐろらねん（弥）でめんの
ゆうホ濱しちやァ和ぐるくッても陸ホるッ
てもろうやァ志めん通その用ふやァめんどうぐ

ぐ日記ホかぐるヨニ三日ごろろイわのでさったろ志
考へるぐら記てをろう（トたび日記をとりのうちちょう名ちゃうとふかるとろるわらとう）通
さん一寸ろ毎をせん濱を出ろるのいア戦日だッ
ト日記をとりてうちひらた（弥）るわど通さんい華ホ
ぐヨヤやたらホ弥ハとりホるぐ引合よ出てる
ゼホろくくろろ毎ことぐやァあるめん（北）弥ハさんホめん
濱ぐくんねんホらホやァ紀角だッた家ぐあると
鰤つまぐらくよこホくらヨ（コレサ）日酒をとろ

明細ふよむあやアぶめく絲マアらら一寸傷ゑく

トいろぐをむりふとり
あげ紙ゆ
をひらき
てこまアより
日記をよま
かることあ
りとあび

西洋航海旅日記

我明治四辛未歳
彼千八百七十一年

亞細亜洲内
大日本國蒼生
英一通次郎 為

かハいかるうらふあり
て神ゝ部が見紀を儀
をなあぐらくぎり北
見めてはをぐす

あんぐろ接拭で
唾あさまるゆう
ゐいぐきぐかいそ
あるぜ絲コレサ組
はを出ぎぜだな
つくきけトつぎの
十六日と

二月十五日横濱出帆亞海亦御紙
亞紀の図日本人大亦屋藏石仕ひ
商吉供七附屋部部小八通次郎
あちあくくかあくく此余日本人
ゐ人沼上十四人なり
十六日海上亦合をの〳〵紙ふ蘇ひて
西ろあるゆ沖ふ蹄人いらぐまる迎
あげてかふ物居をひろげかり祭紀
人屋ゑ紙ひ迎上海蛮港まで渡りる

弥次

外吵を
まぐかる
和の
かき抜の
うまかろ
うのの
旅日記より
筑波山人
通次郎
北八

いつとなくよりて通
よくかくる
ヲイ孫はさん初
の面白くもねく
コレサいつぐんか
遊しそらんねそ
んるのをよむ
より世界巡覽
でもよくなせく

岩田名松中もるれ接菓の
ぐもの沼たまび菓て男子おくる菓
をふくさせ御快をおをすがせたり
十七日海上風波の雑事一同行常合め
〳〵松中よりもて拾ひ物ごとるわらる
きり孫沼かハをごけを祭せど
十八日松中安全海上そぐるあり
十九日十一時上海の港へ入その日へ
松中ハ碇泊和蘭人より運上所へ達を

北ガ甘せけくふ
づしい毎日よむ
のでなくてびれ
たらら通さんの
旅日記をおつ
りるを文句ゲあ
りやせう孫沼
さんモットメるく

同日支那と英吉利の富貴松中に
見廻ハ来るは先ハ支那の領事ら
近来支那の政るふ屋ある加英吉
利に警備を乞たり
十日出松して建安の城下ある陳氏の
旅宿店ハ同行酒宴の席ハく
孫沼部率面白の餘りカラス張の陽ハ
を破りて旅布へくのひを紙屋

よんできうせるを
せへとてきくうもちふ
世間のぐうをよせを
ゐぐら絵に部へ蘭
げフイ通さん上
海の藤市居一
条あんぞを彩
肥細ふ出たて
ヨ明女のえぞを

がふうをうを蒙り例のふぞ巳の猪を家
きれり是よて酒妻の裏を作り
世一日廣義建安陳ふ入る絵に部へ八
通に部国辺わく支那人陳海を案内
と て職ゆを元和の途中ハ紀探の
支那人よ行わうて熟分際ようまぶれ
把後に側実ふ一ゐるゆとらびとれ
より式牛居て食るゆせんとまるふ同
人かるゆわ行とそし居のゆ女ふ案内を

ゐるに去年よ
ゐのぐの蒙とハ
チトうらゐ者の
兼ぐぞ
絵に去ん通も似
あいねへと思た
のをを祝と云
ふのゐ蔵町ぶん

ちひ廊下わく彼ゆ女ふせまりたるふ
ゆ女者をあげく家内の者を呼たる
をり者をの異人半居の黒人を乗り
ハを捕へんとまるふハ裏ゐより承ふ
面を服う幸にて場を逃部ふ
選ひく十方を尋ひ関帝廟を人家と
に路を問んとして実説の本像の長大
ゐを陸和と思ひ意絵たるふ塗繊き
かりてハ八ゲ仏をたるを附家数分の

明開化
まんけいくるとゆう
の世ぞやアねへら
悪イとこいふ悪イ
と明白いのぶ
ちんぶんとろ彩
ぶんとろ云のゞや
アねへう亀角ゆ
るいさびぶらぶ

まろ弾くらを剥とらきたり同行添況
郭通況郭の遊人こをを市ねべかの
牛唐ゆく渦食てねるゆ亭を乃
英人来くくわハの石婦赤を撮合かれが
丸坊ゆくるとや女の寝姦をとこねる
僧ひを出をべ結くまべ公るゆ名ん
との撮合ゆ弾きて弾よつくのひとして
洋張若平を出くるを溜せたり
実は日本一の石婦赤張一人は止めるり

いのヲ通さん詠へヘンてあくの身のようぐねくこと
出ッてぐぶ見紀ゆ肩を抱ッゼトとまり丸一月のぐるを
郭をくこをせるあとをこびせんくるるくたまッてこをを丸ヲイ
きるるぐかのまりのふぐくめりきゆふきたまべ
くゆくさんいかぐんゆ附ものそりよくこを市く今の
こを詠げくくまを市るもくそんるつまらねくことまぐあん
で通さんぐかいくくまりのいぐいイ詠ハハくくとりいい
大弟ひぐコレえるこをゆッレてあくの一柔大る伴ぶらち
くかいくあるからよものダト見紀をゆハぶまゆはこつはる

ひろいおらがくにでさへおゝだらうがくに文字のむづかしいのは世にひよ西洋此へ
めくらがおそれるやうなものがぞろぞろとおいらがおやまうり絲を屁をならべてかいて
コウいふげんふる處にもねへなんだがおまへが字がよ
めねへといつたつてとのくまへなものは拾ひよみのも
よめるぜ能ある鷹は爪をかくして何にもしらぬ顔の
円平をやつてねりやアまへくらの育葉だと思つてゐ
らア親はびんぼうでも大学ぐらゐはよめるきゝかたんと
鳥高舎ほどの洒落本手習紙の傍く源平藤吉豊臣家白
おまへなてとの尻ッ端をよんでゐるが イザ夜ぞと云

日本ぢやア目見帳なんぞはお家の粉れたらまだおめへ
のよんでゐるのをかつきらつてよむものもなかまぎて
だとおもつてらひけへてねりやアいゝかとおもつて卵に
乗合もある中で人の秘を大智あげてそら讀
まさまでちやア朋友甲斐がなからうとおもつたから遠慮
ふさいでゐらうぢやアねへかノウ通さんト大きにせ兒たち
つまらねへまくるを並べ
べるに通辺所ゐさまなどになるが通
せるくかの目兒をかしかじて
「マアノヽそんなことゝへどうでも
もいゝおやアねへか小さんにも似合はね通人見事も去りやれが

通次郎
北八

西の海
千里の
ふねゆき
月の入る所
あらしおろしの郎
南月上清
弥次郎

ノウ絵はさん絵「あふサ扇捨てをとなせく書てなる
通り傳じのをそらよろこだのあとあとわのと已
ぶ紙蓋の引れをまいとそやうふこぐらねくねるを
ふくやうよ倫いむえきだたちゃんちゃらかくくい
ふびんなものダ「ヨヤかろうひとをそぐらうもの
かあくだくあんまりのものちりぶらまも赤ねくせ
比以前面図とらの家を安図とよこちびくく
絵傳の家産ぐ知とるとと見裏形るかから迎也

て中腹ろらとろげ蔵くく弱蓋ぐをそらまて帰
ッた紙袋へあろッた子絵「そりやア父母のかくちぶ
仰くあるから夜目ふまちびくわのぐらくてあくるん
ぎア服い節宮耳いきくらげどうぜんだらもあ
をそくも白紙にあんべんあくあ悪イわぐつイてある
とそふのぐらう傷傷よくのろんぐきくらぎらゆだ
しもとうえぐあるぐ傷傷よまぎのろんぐきくらぐ
ぎやアあるる傷ことをぎり紙の張りヨ通

捲ひゆするちりめん英通次郎はあしく第八編目
出てく中あまりの脱んでしまりチョン〳〵と指ツきり
きてコップでグッとやしめへト弥次郎おきせて弥次も
ゆかりよりひきして岩ぶかく差出しる北八も
弥次郎ビイルを手さしくるそてぐッと取へさせ
づきさん定跡盃にもつらなからうが通さんの中人ダ
ひらけく一ツうけくさ北「ヨット〳〵とばまるく
トぐろとおし アくいくとうのもらダ呑口ハチト若イゆぐぐぐ後へ
へゑいツくん精のいのハビイルのゐダ通さんおかきるふ

お骨折一ツ献じやせう通「いくぐゐのツぺふ海苔かけ
とう俗とへんどゝぐく弥「そをゑてもおやきのうおちく
から称の一字と称ざアあるめへ北「ある〳〵漢蓮華
渡と儀らく太鼓をたゝくやッサ
トとのむごと云のにおひみて
弥次郎北八もとゝけいうのの
どうくへでてなくきけくて弘三人とも東ふ
おそれぞんけんとあり大きふまうりく
音をとふひぢきうくら
妻の揺じりのをもなくて浪のり船の車のをとも
耳ふへのらで船渡も新しくぶどうちやけり○遠よふ男
の借七いさいせんより部屋の釣台ふ昼採せんとて

扨北八の物やらるる夢うつゝ朝ぼらけ
耳ふへうて眠らもどうとしてねるうち三人ぐゝ
酒がまわりてその場に倒れたるまゝとえを出し屁
放げつる三番ビしゆらわづらをしてゐぐさまんと相
よりそとゆり起り扨北八の鼻の穴より穴を
かけく通る北八の鼻きを引
出ゝ〳〵通ゝ級毒瓦斯ふ「フラスコ」の穴を塞つけ毒
人がるをべるそれる級の中途より又一筋のひもを

結びくるその端を通辺部ゞ長兒帯白布を二重ゝまゝ
巻くゝとおもてびつけ接足おくゞ立ける爰ハ
箱を磨ゝ上等の男ハ足袋の紙
屋ゝいとのるべぐもれるゆゑ用ゆる時脱よりて
書ふとゝかのゞ紙屋より通辺部ゞ紙屋近傍伝織
をゝみるゝとれをひけば程牛の種の喜よりと
くゝるひぐゝを歸令とせり供ゝ
長郎エあんぐゝ私將の異人ゝらくゝとゝるゝ

あるゞかめくさんの代ゝ通辺さんをよゝとゝッせ（チウ
傍ゝゝぐゞどぎるゝゝゝくゝよびッせ（ほ）ヨひろ〳〵ア箱の
紙屋傍を磨ゝゝまゝこゝのゝるゞだゝゝ通公ハ部ゞ
る供おゝくゝ紙屋ゝをゝやゝとべイ縄のヨふッぞゝッせ（
ゆゝ〜ゝゝア猿紙屋ゝ用のヨゝゝけゝく紙ゆ〜ゝたゝ
ゆくゝゝとゝひろぎゝい供七ゞゝゝと
ゝゝねびゝまゞゝふのゝるゝゝゝく。通辺部ハ種脈ゝる
る身ゝゝ傍伝織の種の喜リンゝと喜ゝるゝ
図服をゝゝ〜磨織ゞ弟ゝゝんゝとゝゝゝき

北八

通次郎

立あがらんまるまるゐかのが軍よりつるぎをとりたる
弥次郎わハの髭鬚を強くひくゐ二人りいびくり縁
聰えんぶん目をまるくく等くあいてく起とるゐ通次
郎い驚ゐの洋ゐゆうんとあゆこあを擦ゐひろまて
女人ゐがら天窓とゆるゐ猫ゆ嵐とれいどうゲと
え合を部類とひくひを沖合セ（アイタくく ゐ アイタくく）
女人（通）さんどうまるこまをサくく（トかあのゐをゲゐゐをひろげ
こびまをてくりさげたりしくまごく
まるゐ通次郎いとまをゆるよりあゐのゐいごらあらんところ
づれちめくるへとまびをまくゐ中まゐつけたるひもをとれそのまく

廣ゐ彩ゲのとゐゆく女人（ゐのゐひもをとれくまゐいゆるえゲくゐ
一度ゐちろのちしろの方へひくてゐかくりゐげのあををゆーれるひもの
あまゆりくゆひつけーあらまとのとくりゐてゼゲゆをあれくりゐもしゲべいく
さゐたくゆちしへをたえまゐウンくくあたくまバタくるまやくるゲをを
むまびーひるをとらんとあまゆまゲゐ怖ゐいるゲゲゐゲくゐたっ
かくとこまゆむまびゆまーれるゆまびるゆくゐふてくてとあくまゐへいたきゐ
むく（弥）りて（ゐや通）ゐの仕るゲだらう怪ゐるを驚てとんざ
悪イちやまをちやアがるゼこりやアありくきうゐやア
とくゆく（丸一）（ホンニらゆく（ほ）いざんぎりダちくゲゐねく鬚を
わどりてちしゲ娑ゐあらくゆうサアおゆくくらゐ出ーみせス（ト弥次郎）

まぐろうるをたべらるるの異人らのぞをあつとあきれたぐらく
仲るの水をつまをきたりとうさるつりゆてるけもろろぐあ人を
かくぐんがやくらのてさらぐ
ちふ話はやハふるぐかどろた

「これサモシかあくぐろへねんとかいら自己
ッちをを通ふまるのぐアレ若ぐやぶけらアコレサー

「モシけんろをぎやアねくろらけをを色るせくヨく
小だれッてくトもぐけどもむふれたいぜいつろふことぐつろぐ
双方へひたるるさ異人ら二分組ふたそろれあ人を
たちくはた
まるを

○かる所は通は部いけ稼ぎを喫つるるふ
るのの米せーやとは場ふをつけ掘ふをろく教い
話はくわハまるがむーり合てろんろ世を水文の異人

まるふ引殺されかくり金を騙らるるあらんとあまるも
ぬひ遠へてまあ中ふ別ひくのう異人らを通「話はさん
もゆさんもまるあるぶでらさろひうをてて強男の蜀焼
ぎやアある中「イケ勢を」ろ教こ食ったりたぶさの
むーるッくらも大人をねくやアナマドロスなんぞふ教を
ちやアまるこストぐくるたらるぎやアねくうもんぐえんぐろ
いせををるてあひダ「コレサ通さん張も喫かぞよけん
のこぎやアとからねくモシけんろをたこのぎやアねく

[illegible]サト[illegible]ヲイ通さん

[illegible]ライト〜[illegible]マドコスホ[illegible]トキニ[illegible]

[illegible]ぐるの[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]途[illegible]細[illegible]をつ[illegible]ぎ

[illegible]ふと[illegible]僕の[illegible]伝機の[illegible]で

[illegible]目をさ[illegible]せ[illegible]ぐ[illegible]の[illegible]

[illegible]れダ[illegible]ら[illegible]の[illegible]

[illegible]ッたぜ[illegible]ホン[illegible]何奴ダ[illegible]やァ[illegible]ら[illegible]通[illegible]

[illegible]すると女中達[illegible]知[illegible]ヨ[illegible]ア[illegible]ら[illegible]

[illegible]ぎ[illegible]る[illegible]ら[illegible]の[illegible]

[illegible]ら[illegible]馬[illegible]て[illegible]の明[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]し[illegible]

[illegible]ぶ[illegible]の[illegible]の[illegible]

○第九編ハ「スエス」ヨリ入港後海の間ヨリ波郎ハ八時疫病林湿ヨリ常新土の下地ヲ侵され番地の病院ある「シヤボン」（ヘボンの門人と云）とゝくる石醫ヨリ治療を受の一回病院ヨリ入りて診察を受ふ病者の滑稽弥次郎ハ八月日性氣ヲ「エジプト」の城下「カイロ」ヨリ名所見物及ビピラミドとゝくる世界有名の石塔を見るの巻第十編迄引續出板仕ル

西洋道中膝栗毛八編下了

發行書肆

心齋橋通南久宝寺町　伊丹屋善兵衛
同　北久宝寺町　河内屋源七
同　北久太郎町　河内屋喜兵衛
名古屋本町三丁目　菱屋藤兵衛
同　八丁目　菱屋平兵衛
日本橋通一丁目　須原屋茂兵衛
同　二丁目　山城屋佐兵衛
同　小林新兵衛
同　芝神明前　岡田屋嘉七
同　横山町三丁目　和泉屋市兵衛
浅草茅町二丁目　和泉屋金右衛門
本石町二丁目　須原屋伊八
摂　屋喜兵衛